



La délégation de la ville de Nagakuté



第15回 2024年長久手市姉妹都市友好親善訪問団

報 告 書



長久手市

目次

団長あいさつ

第15回 2024年長久手市姉妹都市友好親善訪問団 団長 佐藤 有美	1
訪問団員名簿	2
事業経過	3
行 程	4
ホストファミリー紹介	16
訪問団の思い出	
名久井 洋一 「ベルギー王国ワートルロー市への訪問を振り返って」	17
野村 こはる 「姉妹都市を訪れて」	18
秋田 いち花 「笑いあり涙ありのベルギー訪問」	19
伊藤 美音 「Je t'aime」	20
北川 莉望 「もう一つのあたたかい家族」	21
後東 果希 「ベルギー訪問とこれからのために」	22
菰田 美波 「15歳真夏の大冒険」	23
篠原 幸洋 「長いようで短かった旅のお話」	24
杉山 るる 「学んだこと」	25
田中 乃愛 「ベルギーで私が得たもの」	26
橋本 耕太郎 イヴァン 「ワートルローの思い出」	27
畑中 ことね 「ベルギーの思い出」	28
姉妹都市交流のあゆみ	29
Special Thanks	32



あいさつ

長久手市とワートルロー市の姉妹都市交流は、古戦場を持つ街というご縁から 32 年目を迎え、本市からの訪問団派遣は 15 回目となりました。今回の派遣は 6 年ぶりであり、ヨーロッパの社会情勢の変化や新型コロナウイルス感染症の影響を乗り越えて、これほど長い期間に渡り交流を続けてこられたことの素晴らしさを改めて感じます。

この度、私は青少年 10 名と共にワートルロー市を訪れる機会に恵まれ、多くの感動と学びを得ました。現地では、市内の各所に両市の市章が入ったバナーが設置され、ワートルロー市民の皆さんからあたたかい歓迎を受けました。また、多くの方から日本や長久手市に対する想いを伺い、私たちもワートルロー市のことを知る中で両市の絆の深さを感じることができました。団員たちが異文化に直接触れ、ホストファミリーと一生懸命コミュニケーションを取ろうとする姿や、過去にワートルロー市から長久手市を訪れた団員が今回の事業に通訳として参加している姿など、両市の交流での様々な経験を通じて成長していく様子を目の当たりにし、未来への希望と確信を持ちました。

帰国後、10 月 12 日(土)のベルギーワートルローフレンドフェスにて、市民の皆さんの前で体験談を話す報告会を開催し、団員たちは自らの言葉で姉妹都市での体験や感じたことを熱心な口調で伝えました。帰国後もホストファミリーと連絡を取り続けている団員もあり、一人ひとりが経験を語ることで両市の魅力がますます広まっていくことこそ、国際交流の成果であると感じます。

今回の派遣にあたっては、訪問団の O B が事前研修に赴き、体験談や今の生活に活かされていることを伝えたり、市内大学生がフランス語を指導したり、地域活動団体が市内の歴史や日本文化を体験する機会を設けたりとご協力をいただきました。このように、姉妹都市交流の事業を機に多くの市民に新たな視野をもたらしてくれています。

国際化が進み、多文化共生の重要性が高まる現代において、これからも市民同士の交流を一層深めていき、両市が益々発展することを願っています。

2024 年 12 月

第 15 回長久手市姉妹都市友好親善訪問団 団長

長久手市長 佐 藤 有 美

■ 訪問団員名簿

	氏名	所属	
団長	佐藤 有美	長久手市長	
引率	名久井 洋一	長久手市くらし文化部観光商工課課長	
引率	野村 こはる	長久手市くらし文化部観光商工課主任	
氏名		学校	学年
秋田 いち花		中学校	3 年
伊藤 美音		高等学校	1 年
北川 莉望		中学校	1 年
後東 果希		中学校	3 年
菰田 美波		中学校	3 年
篠原 幸洋		中学校	2 年
杉山 るる		中学校	2 年
田中 乃愛		高等学校	3 年
橋本 耕太郎 イヴァン		中学校	2 年
畑中 ことね		中学校	1 年

■ 事業経過

項目	日時	場所	内容
訪問団員の募集	5月7日(火) ～27日(月)		
選考会	6月1日(土) 9:00～12:00	市役所会議室棟2F	面接
オリエンテーション1	6月22日(土) 13:30～15:30	市役所西庁舎研修室	オリエンテーション 集合写真・個人写真撮影
事前研修1	7月6日(土) 13:30～16:30	市役所西庁舎講義室	訪問団員OBのゲストトーク・意見交換会 フランス語レッスン 挨拶スピーチ担当者決め 日本文化紹介内容検討
日本文化体験	7月21日(日) 9:30～10:30	色金山歴史公園	長久手古戦場の解説 床机石の見学 抹茶体験
オリエンテーション2 事前研修2	8月10日(土) 13:30～16:30	市役所西庁舎研修室	行程等の最終確認等 フランス語レッスン 日本文化紹介準備
出発	8月19日(月)	市役所西庁舎1F	18:00 出発式 18:30 市役所出発 22:50 中部国際空港出発
帰国	8月25日(日)	市役所西庁舎前	19:05 中部国際空港到着 21:30 市役所着
ベルギーワーター ローフレンドフェス	10月12日(土) 12:00～13:00	リニモテラス公益施設	体験談の報告

■ 行 程

	月日	発着地／滞在地	現地時間	
1	8/19 (月)	長久手市役所 中部国際空港	18:00 18:30 22:50	出発式 中部国際空港へ ヘルシンキ空港へ (機内泊)
2	8/20 (火)	ヘルシンキ空港 ブリュッセル国際空港 ワテルロー市庁舎	5:55 9:15 10:45 11:30 13:30	ブリュッセル空港へ ワテルロー市へ 到着 対面式 姉妹都市30周年記念記帳 団員によるスピーチ 歓迎会 ホストファミリー宅へ (ホームステイ)
3	8/21 (水)	ワテルロー エノー	9:30 16:10 18:00	姉妹都市交流プログラム ストレピ＝ティウ船舶昇降機 施設見学、乗船体験 ロンキエールインクライン見学 エコーサンヌラランの城・庭見学 団員によるスピーチ (ホームステイ)
4	8/22 (木)	ワテルロー他	終日	ベルギーの暮らしを体験 ホストファミリーと過ごす (ホームステイ)
5	8/23 (金)	ナミュール ディナン ワテルロー	8:30 19:00	姉妹都市交流プログラム ナミュール／ディナン観光 アンの洞窟探検 お別れ会 日本文化紹介・団員によるスピーチ (ホームステイ)
6	8/24 (土)	ワテルロー ワテルロー市庁舎 ブリュッセル空港	9:00 15:00 19:00	Memorial1815(古戦場博物館)見学・ライオンの丘 ホストファミリーとのお別れ ブリュッセル空港へ ヘルシンキ空港へ (機内泊)
7	8/25 (日)	ヘルシンキ空港 長久手市役所	0:15 19:50 20:40	中部国際空港へ 長久手市役所へ 市役所到着、解散

6/22(土)
オリエンテーション

7/6(土)
第1回事前研修

8/10(土)
第2回事前研修

7/21(日)
日本文化体験



8/19(月)
出発式



8/20(火)

ヘルシンキ空港
で乗り換え

ワーターロー市
到着



対面式



歓迎会



8/21(水)
交流プログラム

ストレピ=ティウ
船舶昇降機



クルージング
ロンキエール
インクライン



エコーサンヌ
ラランの城・庭



スピーチ



8/22日(木)

ホストファミリー
との1日



日本食づくり



8/23日(金) 交流プログラム

ナミュール ディナン



アンの洞窟



お別れ会



日本文化紹介

剣道の型
スーパーボール
すくい

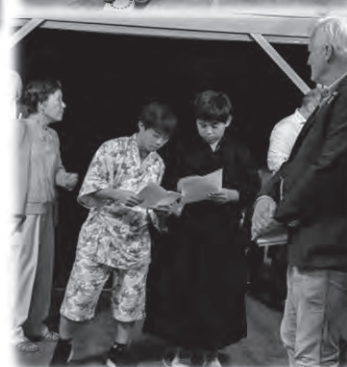


書道

折り紙



ダンス
スピーチ



8/24日(土)

Memorial
1815

ライオンの丘

ランチ



お別れ



8/25(日)

帰国



ベルギー
ワテルロー
フレンドフェス
2024



第15回姉妹都市
友好親善訪問団員

圖 觀光商工課 ☎56-0641

姉妹都市のベルギー
王国ワテルロー市へ
青少年を派遣します。詳
細は市HPへ。



8月19日(月)~25日(日)

【附】市内在住の中・高校生 10人
※市を代表して派遣されることを十分理解して行動できること等条件があります。

■ 31万円程度
■ 5月27日(月)までに申込書と作文を
観光商工課窓口、メールまたは郵送
(消印有効)で提出。

■ 6月1日(土)に選考を行います。

広報ながくて5月号



今夏、コロナ禍で長久手市へのルロー市への除雪期間は8月1日という気候に悩んでいる。



長久手市 8月、ワートルロー市へ訪問団派遣



6年ぶりに再開 中高生を募集

[illegible]

中日新聞 5/16(木)

ワーテルローの魅力
食べ物や体験で紹介
長久手でフェス
長久手市の姉妹都市ベル
ギー・ワーテルロー市につ
いて理解を深めてもらおう

[illegible]

中日新聞 8/20(火)

長久手 → ベルギー・ワテルロイ 6年ぶり友好訪問

[illegible]

中日新聞 10/13(日)

■ ホストファミリー紹介

FLETCHER ファミリー



COSTA ファミリー



COUPARD ファミリー



HANSOTTE-CHOUFANI ファミリー



JUSHKO ファミリー



■ 訪問団の思い出

「ベルギー王国ワテルロー市への訪問を振り返って」

引率者 長久手市暮らし文化部観光商工課 課長

名久井 洋一



訪問団の一番の目的は日本とは異なる文化に触れること。現地に行くことでしかわからないことがある。異文化への理解、興味、関心を引き起こさせるのは、現地の空気感。何を感じ、何を思うのかは人それぞれ違う。今はインターネットでつながり、様々なことを日本に居ながら知ることができる。しかし、現地での訪問団の子どもたちの様子を振り返ってみると、現地の人々の人柄、気候、風土、生活文化の違いなど、実際に現地で見たり聞いたり感じたりすることの大切さをあらためて感じた。海外に旅行ではなく訪問団という形で行く価値は「人との出会い」にある。ホームステイやエクスカッション（体験）をとおして、友情を育み、交流を深め、短い滞在でも多くのことを学び、刺激を受けてきたと思う。中高生という時期に異文化に直接触れた経験は、子どもたちの将来にきっと役に立つと思う。将来の人材への投資として、長久手で育つ子どもたちに海外経験の機会をこれからもつくっていききたい。

ワテルロー市側との訪問にかかる調整は、現地に到着するまでは連絡の手段はメールで英文のやり取りのみ。現地でも通訳がついているが言語が異なり意思の疎通も大変だったが、この経験をとおして市職員自身の成長にもつながっている。

ワテルロー市は、ブリュッセル近郊の住宅都市であり、そのイメージでは長久手市とも似通っているところがあった。住宅地においては、意匠や色彩に統一感があり、敷地が広くとられて、芝生や樹木が多く、心地よさを感じさせる空間になっている。電線も地中化され、ゆとりのある空間構成になっている。

店舗の建ち並ぶストリートでは、店舗の意匠は異なり、色も揃っていないにもかかわらず、全体としての統一感があった。古いレンガ造りの建物でショッピングモール（映画館もある）になっているところもあった。全体で見るとまちに落ち着きを持たせているのは、まちの色合い。カラフルな看板でも色彩のトーンを抑えていてデザインもよく、文字のフォントや色、形で魅せている。

訪問団の歓迎行事は市役所庁舎やスポーツ施設など公的な施設で行われた。公共施設でパーティーを催すことができる機能を持たせている。外から来た人をもてなす意識が根付いていると感じた。ホスピタリティあふれる雰囲気を持つ施設は市民にも居心

地のいい場所になり、自然に交流が生まれる施設になる。ハード面の整備はできなくても使い方を変える、スタッフの迎え方ひとつ変えるだけでもホスピタリティを高めることはできる。

ワテルローの戦いの歴史の見せ方は「保存」と「活用」。銃や大砲などの実物大やレプリカの展示、戦いの経過を説明する地図や解説の展示の他、最新のテクノロジーを活用して、3D映像やパノラマ画像でリアルに再現し、戦場に居るかのような臨場感を持たせている。そして何よりも博物館や記念館の建造物、古戦場の景観が残されていて、当時を思い起こさせる風景が広がっていたことが印象に残っている。

中世から続く街並みの中を歩いていると、生活や暮らし、歴史そのものを感じることができ、それだけでワクワク楽しくなる雰囲気を持っている。観光地として「作られた」ものではなく、外国そのものを感じることができた。

日本では観光地というどうしても「作られた」感がでてしまうが、観光客、特に外国人に向けては、まちのあるがままの姿を見せる方が魅力を感じてもらえるのではないかと。「観光」とはそのまちの歴史や人の営みそのものを見ること、魅せること。市民が楽しんでいるまちには自然に人が集まってくるのではないかと。

訪問をとおして現地で感じた雰囲気、おもてなし～まるで普段の食事に招かれたようなフレンドリーな雰囲気、そのどれもがまた行きたい、訪れたい！と思わせるものとなり心に残っている。まち全体がホスピタリティのレベルを高めていくことができれば、本市の「観光まちづくり」にもつながる。来年、ワテルロー市のみなさんを迎える頃にはホスピタリティあふれるまちにしたい。



「姉妹都市を訪れて」

引率者 長久手市暮らし文化部観光商工課 主任

野村 こはる



出発の約1年半前にワテルロー市のアラン助役へ国際交流担当の挨拶メールを送り、私達の訪問の準備が始まりました。32年前の姉妹都市提携時と比べ、海外渡航の経験がある子ども達も多く、連絡手段も豊富な今、現地を訪れる意義を考えながら進める準備期間は、あっという間に過ぎました。私自身、高校生の頃にオーストラリアでのホームステイを経験したこともあり、今回の派遣が団員の皆さんにとって、不安な気持ちもチャレンジに繋がることを経験したり、お互いの国やまちの良いところを知れる機会になるように企画やサポートをしたいと思いながら関わらせていただきました。

長時間の移動からワテルロー市に到着した際には、市庁舎に咲くたくさんの花や青空にはためくベルギーと日本の国旗、まちにたくさん設置された両市の記念バナーを見て、まち全体で歓迎してくださる気持ちを嬉しく感じました。そして、ワテルロー市の職員さんやホストファミリーの皆さんは本当に親切に接してくださり、緊張がほぐれ、お話しをする度にあたたかい気持ちになりました。

訪問中に印象に残ったことは2つあります。1つ目は、訪れる先の景色が本当に美しく、それをワテルロー市の皆さんが、複雑な歴史背景がありながらも誇りを持って教えてくださった姿です。Memorial1815(古戦場博物館)やエリザベート音楽祭の様子、ブリュッセルの街並みなど、手をかけて守り引き継いでいくものの美しさは、現地で触れなければ分からなかった感動だと思います。

2つ目は、団員それぞれが事前研修や準備期間で考えた目標や目的にチャレンジしていた様子です。4日間という短い滞在でありながらも、お別れの際にはなかなかバスに乗れない程、ホストファミリーとの時間を大切にしてきた姿を見て、私も思わず貰い泣きしてしまいました。そして帰国後は、ベルギーワテルローフレンドフェスで地域の方の前で、自分達の言葉で体験したことや感じたことを語っていただきました。事前練習もなく本番という大変緊張する場

だったと思いますが、言葉や習慣の違いを一生懸命理解しようと過ごした時間から、多様性の大切さなど様々なことを実感されていたことを改めて知る機会となりました。これからも訪問団員OBの一員として、体験したことを周囲の人へ伝えてくれることが長久手市の多文化共生の一步につながると感じています。目標を達成できた良い思い出ばかりではないかもしれませんが、ワテルロー市と団員の皆さんの今の想いが両市の絆となり、これからも友好の輪が広がっていくことを願っています。

最後になりますが、今回の派遣交流を通じて、貴重な経験と思い出を団員の皆さんやワテルロー市の皆さんと共有できたことに心から感謝申し上げます。保護者の方々をはじめ、関係者の皆さまのご支援とご協力があったからこそ、次に繋げられる事業になったと感じています。本当にありがとうございました。



「笑いあり涙ありのベルギー訪問」

中学校3年 秋田 いち花



私は今回のベルギー訪問を通して、実際に行ってみないとわからない海外の大変さや楽しさに触れることが出来ました。まず、この旅で大変だったことは、言葉が通じない事です。私は元々英語にはある程度の自信はあったけれどネイティ

ブの言葉は速くてなかなか理解できませんでした。翻訳機もあったけれど、今これを言いたってというのが自分の口から伝えられないので、だんだん話すのに消極的になっていくのを感じていました。いつもだったらこう返せるのにとか思ったりして、思うように言語が扱えないのは結構つらかったです。だけど、そんな状況を変えるきっかけになってくれたのがゲームと音楽でした。私は元々ゲームと音楽が大好きで、旅の中でホストファミリーとゲームをしたり、音楽を聴いたりする機会がありました。好きなものを分かち合えた瞬間、心から楽しくて好きを分かち合える事ってこんなに嬉しいことなんだって気が付くことが出来ました。

そしてこの旅には楽しかったこともたくさんありました。その中でも特に楽しかったことはホストファミリーに日本食をふるまったことと、お別れ会での日本文化紹介です。私とかなれちゃんは日本食紹介でそれぞれ卵焼きとお味噌汁、そばろごはんとデザートのうちろうを作りました。材料を調達するとき、お米が全然見つからなかったり、初めて鍋でお米を炊いたりしたので、ちゃんとできるのか不安だったけど、かなれちゃんと作戦会議をしながらなんとか作り上げることができました。日本食をふるまうと、ファミリーのみんなが美味しいって言うてくれたので、とてもうれしかったです。そして文化紹介では私が担当していた、折り紙で鶴を折るコーナーにたくさんの人が来てくれました。私のホストファミリーのみんなも来てくれて苦戦しながらも頑張って折っている姿がとてもほほえましかったです。説明は難しくてなかなかできなかったけれど、出来

ないなりに実演しながらみんなでかわいらしい鶴をいっぱい折ることが出来ました。そして最終日には、かなれちゃんと、みんなで撮ったチェキの写真をいっぱい貼ってアルバムをつくりました。それをファミリーのみんなにプレゼントしたとき、みんなすごく喜んでくれたので頑張って作ってよかったなと思いました。



私のベルギー訪問での最初の目標は「海外の人たちの考え方を知る」でした。これを目標にした理由は、ネットのサイトの中で見る彼らは自分を一番に大切にしている、いい意味で自己中心って感じだったのでそんなひとになりたいと思ったからです。だけど実際に見てみると思っていたのとは違って自己中心っていうよりは自分のペースも大切にしながらほかの人たちも同じくらいに大切にするというように見えました。その姿が生き生きとしていて、まっすぐで、キラキラとしていたので私の新しい憧れになりました。

今回のベルギー訪問を通して私は、海外は楽しいことばかりではないことを知りました。

だけどそれ以上の感動があることも知ることができました。こんな最高の機会を作ってくれたホスト



ファミリーのみんなと相方のかなれちゃんと市役所の皆さんにとっても感謝しています。またいつかベルギーを訪れるときには、英語をいっぱい勉強してたくさんおしゃべりしたいなと思います。

「Je t'aime」

高等学校1年 伊藤 美音



私は、ベルギーを訪問するにあたって、二つ目標を決めて行きました。一つは選考会の面接で答えた「日本の持つ思いやりやあたたかさを届けたい」というもので、もう一つは、出発式のコメントで言った「コロナ後初めての訪問団として、ワテルロー市と長久手市のつながりを途絶えさせないようにがんばりたい」というものです。私はこの旅で、自分に何ができるかということしか考えていませんでした。



しかし、ベルギーに着き、市庁舎の前に立ったとき、いろいろ考えてきたことが吹き飛んでいってしまったように感じました。建物はファンタジーの世界に入り込んでしまったように大きく美しく、人々も私の2倍くらい背が高く感じます。リスニングは得意だと思っていたのに、飛び交う英語が全く理解できませんでした。市庁舎を案内してもらい、ホストファミリーと対面しても、まだどこかふわふわした感覚がありました。

めまぐるしく一日が過ぎ、今ベルギーにいるという実感も追いつかないままに自分たちの部屋に案内してもらおうと、私のベッドの上には何かが乗っていました。近づくと、それはチョコを抱えた白いくまのぬいぐるみです。首元に結ばれているかわいいピンクのリボンには、英語と日本語で「Welcome to Belgium! Mio! (ベルギーへようこそ)」と書いてありました。このとき、私はホストファミリーに受け入れてもらえたことに安心し、ようやく地に足がついたように感じました。

私のホストマザーのモイサさんは、スロベニア出身で、EU関連の職場にお勤めだとのことでした。朝食にパンが出たときに、「これは日本ではフランスパンと呼ばれているんですよ」と伝えたら、「日本のネーミングは安直だね」と言われて、あまりにも率

直な言葉に大笑いしたのを覚えています。すごく優しくておもしろい人でした。ホストファーザーのジュリアンさんはものづくりがとても上手で、家にあった卓球台やテーブルサッカー、それにツリーハウスまで自分で作られたと聞いてびっくりしました。テーブルサッカーで勝負をしましたが、自分で作っただけあって本当に上手で、全く歯が立ちませんでした。他のゲームにも何度か参加してくれて、その度にぼつりぼつりと英語で優しく話しかけてくれるのがとてもうれしかったです。



ホストシスターのミアちゃんは、今は大学生でフランスの大学に通っているそうです。ミアちゃんは明るくて天真爛漫で、いつも私たちを笑わせてくれました。

そして、私と同年のホストシスターのエヴィちゃんとは驚くほど共通点がありました。私は法律に興味があるので法学部に進もうと思っているのですが、エヴィちゃんも弁護士を目指しているそうです。それから、エヴィちゃんとは日本文化でも盛り上がりました。エヴィちゃんの部屋にはたくさんのマンガやアニメのグッズがあり、日本が好きで訪日してくれたこともあると聞いて本当にうれしかったです。たくさん日本語を教えてほしいとのことだったので、いくつか紹介したところ、「うつくしい」と「はずかしい」を気に入ってくれました。もちろん私もフランス語をたくさん教えてもらい、「ジュテーム（あなたを愛しています）」がお気に入りになりました。日本語で言う勇氣は出ませんが、次にホストファミリーに会ったときはフランス語で伝えたいと思います。

私が日本の思いやりを伝えられたかはわかりません。ホストファミリーの思いやりをたくさんもらった旅となりました。エヴィちゃんやホストファミリーとは今も学校の文化祭の写真を送ったりして交流を続けています。

いつかエヴィちゃんが日本に来て、またいろいろな話ができるのがとても楽しみです。私をワテルローに連れて行ってくださった皆さん、本当にありがとうございました。

「もう一つのあたたかい家族」

中学校1年 北川 莉望



私は訪問団として、ベルギーへ行きました。私は、日本とは違うベルギーの国のことについて知り、それを身近な人に伝えて訪問団ではない人たちにも伝えたいな。研修で学んだ以外のフランス語を学んで、言語力を高め将来の夢に活かしたい。という目標をもって訪問団に参加しました。

その目標は達成でき、ベルギーではお箸を使わずに、フォークを使ってご飯を食べるという事、雨の日が多いという事、夏でもほとんど気温が20℃という事などをホストファミリーから教えていただき友人や家族、学校の先生に話をしてベルギーについて知ってもらうことができました。

また、「いただきます」や「危ない」早口言葉などをホストファミリーの方におしえていただき、さらにフランス語を知ることができました。

次にホームステイ中の思い出です。



1つ目は初日からケーキを買ってもらって夜ご飯のデザートにみんなで食べたことです。2つ目はホストファミリーのお家でワッフルをつくったことです。これも夜ご飯のデザートとして4種類のフルーツと共に食べたことです。自分で作ったワッフルは初めてだけど、良い感じに美味しくできました。なぜかお父さんより

もペアのこと作ったワッフルの方が形がいい感じにできていて、楽しかったです。3つ目は初めてやるゲームについてです。初日に、start the party というゲームをやりました。ルールもフランス語でよくわからなかったけどお姉さんが優しく英語で教えてくれたため楽しくできました。私は本当にそのゲームが楽しくて、今

もずっとまたみんなでやりたいな。とか思ってます。最後の4つ目は、ホストファミリーとブリュッセルへ行ったことです。その日はお姉さんおすすめのお店へ行ったり、教会へ行ったりして楽しみました。アトミアムと言うところへ行こうと街を歩いていたら、バラを渡してくれたおじさんが居ました。もうその時は嬉しい気持ちがありました。でも実は、怪しいなと言う気持ちも半分以下ぐらいありました。その気持ちは見事にあたりお金を取る悪者でした。でもお母さんが居なかったらきっと騙されていましたが、それも思い出になりました。

次にベルギーで印象に残ったことです。1つ目はベルギーで売っているいちごがとても量が多かった。ということです。日本なら普通、大きいのが5、6個なのでびっくりしました。

2つ目はお店の人の、ノリがいいことについてです。最後のフェアウェルパーティーの帰りに音楽がかかって踊っていたら2家族だけ残っていました。そしたら店員さんがいきなり踊り出したのです。それがとっても楽しかったです。

私はこの一週間がとても短く感じるくらい楽しめました。ホストファミリーの皆さんは本当の家族のように暖かく、優しくしてくださいました。なので最後のお別れの時、息できなくなるんじゃないかと言うくらい泣きました。前回の訪問団のみなさんもそんなことを言ってましたが、うそでしょ。とかおもってました。でもほんとでした。それくらい素敵な体験ができて、楽しかったです。



「ベルギー訪問とこれからのために」

中学校3年 後東 果希



私の今回の交流事業の目標は、将来心理学を学びたいと考えているので、国内だけではなく海外の人とも関わり、物の見方や考え方など価値観を増やすことでした。ベルギーでは常に人のことを優先する紳士的な考え方や行動、陽気な性格など、海外やヨーロッパ特有の見方・考え方を知ることができました。そのため目標は達成できたと思います。

また、歴史や建築物を実際にたくさん見て、学ぶことができ、ディナンなど歴史を感じる建築物に感動しました。日本とは街並みが圧倒的に違い、特別な建築物でなくとも写真をたくさん撮ってしまいました。

思い出はたくさんありますが、特に印象に残っていることを書きます。

私は、対面式のスピーチのフランス語を担当しました。フランス語の発音は難しく、不安が大きかったのですが、いざ本番となったときホストファミリーの方々やワテルロー市役所の方々が何度も拍手をしてくださるなど温かく見守ってくださり、しっかり話し終えることができました。日本語や英語以外の言語を話す機会はなかなかないので、貴重な体験ができました。

ホストファミリーで行った『ミニヨーロッパ』では、ギリシャのパルテノン神殿やイタリアのピサの斜塔など、たくさんの有名な建物のミニチュアがあり、まるでヨーロッパを一周したようで、ヨーロッパが大好きな私にとっては最高の時間でした。その日の夜は、私達二人で日本食（卵焼き・鶏そぼろご飯）を作りました。日が長く、外を見て「まだ大丈夫だろう」とゆっくり作っていたら、ご飯の時間ギリギリになってしまいました。ホストファミリーに、「おいしい！」と喜んでいただけたのでよかったです。アン洞窟では、鍾乳洞もきれいでしたが何よりプロジェクションマッピングがきれいで、人生初の洞窟見学がここで良かったなと思いました。

最後の夜のパーティーが、ベルギー一番の思い出です。前半の日本文化の伝承での剣道形も食事会も楽しかったのですが、何より帰る前にみんなと歌って踊ったことがとても楽しかったです。一番“海外”を感じた瞬間でした。

また、驚いたことが二つありました。一つ目は、猫の放し飼いです。ホストファミリーは猫を飼っていたのですが、ほとんど家におらず餌を食べると

きのみ帰って来て、その自由さにびっくりしました。二つ目は、スーパーマーケットのセルフレジの万引き防止対策です。日本では精算前と後の商品の重さで判断していますが、ワテルローのスーパーマーケットでは出口にゲートがあり、レシートについているバーコードをそのゲートに読み込ませると、店を出ることができるという仕組みでした。考えもしなかった発想に驚きました。

私は、中学三年生の夏という受験を控えた大事な時期に今回の交流事業に参加しましたが、勉強をする以上に得られたものが大きいと感じています。行って良かったと思えることがいっぱい、改めて最高の七日間だと思いました。

最後に、このような貴重な機会をくださった長久手市やワテルロー市の方々、温かく迎え入れてくれたホストファミリーのみなさんに感謝申し上げます。この経験を生かして、将来は心理学の勉強ができる大学を目指し、海外への留学や国際交流ができるといいなと思っています。また、今回出会えたホストファミリーとの交流も家族とともに続けていきたいです。



「15 歳真夏の大冒険」

中学校3年 菰田 美波



この夏、私は初めて日本の外の世界を見ました。ベルギーの風景は本当にどこを切り取っても物語の中の世界ようで、市役所に向かうバスでは窓から目が離せませんでした。海外上陸早々、ここに来られてよかった、と思えました。ですが不安もありました。私は人見知りで人と話すのが得意ではありません。その上英語となるとうまく話せる気がしませんでした。しかし、そんな不安はどこへやら。優しく私たちの名前を呼んでくれるホストファミリーの姿を見た瞬間、バスでの何倍も、ここに来られて本当に良かったと思うことができました。

ベルギーで印象に残ったことの一つにホストファミリーの家で過ごした時間があります。ホストファミリーの家はとにかく広い！私の家の何倍もあるリビングには薪ストーブが、走り回れる庭には大きなプールが…。そんなおうちでカードゲームをしたり、茶道ごっこをしたり、日本から持って行った知育菓子を作ったり、ミニダンスパーティーをしたり。その中で日本のことやベルギーとの違いなど、片言の英語ながらたくさん会話をしました。正直翻訳に頼ることもあり、ファミリーが私たちと会話するのは大変だったと思います。それでも一生懸命理解しようとし、優しく相づちを打ってくれました。少しずつコミュニケーションを取れるようになっていったことで自分に自信を持てるようになりました。参加者みんなで出かける機会が多く、家で過ごした時間はほんの少しでしたが、家族の一員になれたこの時間は間違いなく一生の宝物です。ありがとう！

そして、ファミリーと出かけた日のことも忘れられません。訪れた場所はゲントとブリュッセル。こ

こは街全体がファンタジーの世界でした。ゲントで見たお城はまるでハリーポッターのホグワーツのようで、その荘厳な造りに圧倒されました。みんなで川辺を歩いて、初めて見るお菓子を食べて、たくさん買い物をして…ずっと夢を見ているようでした。美しい街での思い出をより鮮やかに彩ったのも、やはりファミリーの存在です。普通に観光していたら気づけない隠れた名所を教えてくれたり、“ワッフルの一番美味しい食べ方はシンプルにシュガーだ！”と言って、2種類のワッフルを食べさせてくれたり、私たちが全力でベルギーを楽しめるように様々なことをしてくれました。あのワッフルは確かに、今までで一番美味しかったです。ベルギーという素敵な国の事をより深く知ることができたこの日の感動は言葉に表せません！

しかし、そんな楽しい日々はあっという間に終わってしまいました。笑顔でお別れしようと思っていたのに、私の目には涙が浮かんでいました。たった一週間のホームステイでしたが、ファミリーの皆さんは“あなたたちはもう私たちの家族です。またいつでも遊びに来てね。”と、優しいハグをしてくれました。私はこのプログラムに参加する際、引っ込み思案な自分を変えたい、という目標を掲げました。優しいファミリーの下で人と関わることの楽しさを知り、色々な人と話すことの価値を学びました。初めて会う人と目を合わせるのが精一杯だった私は日本から遠く離れた国の家族の一員になれ



ました。きっとこれは私の人生を変える経験になったでしょう。

これからもっとたくさん英語を勉強して、翻訳なしでたくさん話せるようになりたいです。そしてもう一つの家族にいつか絶対会いに行きます！



「長いようで短かった旅のお話」

中学校2年 篠原 幸洋



この度、派遣事業の思い出、ということで何枚か書かせてもらいます、篠原幸洋です。まず、ベルギーの存在を皆さんは知っているでしょうか。簡単に説明すると、ヨーロッパに位置し、長久手と姉妹都市提携をした都市のある国です。ベルギーは緯度が高いので涼しく、今回僕が行った都市、ワテルローは豊かな自然に囲まれた都市でもあるため、いろいろな興味深いものを発見することができます。例えば、街中の石造りの道路であったり、自然と年月の賜物、鍾乳洞であったり、歴史の感じられる古城などがあげられます。些細なもの一つをとっても面白いベルギー。今回は、そんなベルギーでのホームステイ中の思い出や、滞在中印象に残ったことなどを紹介していきたいと思います。

印象に残ったこと一つ目。すごく涼しい！ベルギーは緯度が高いので夏でもすごく涼しいです。日中でも三十度を超すことはあまりなく、長袖でも十分なほど気温が低いです。そして、知識として理解するのと体験として理解することには大きな差があります。僕の場合も例外ではなく、飛行機から一步踏み出した瞬間、思わず身震いしてしまいました。次行く機会があれば、きちんと薄めの上着をはきたいと思います。

印象に残ったもの二つ目。一戸建てが多い、ということです。日本にはマンションだったり、アパートだったり、背の高いビルなどがたくさんあります。ベルギーにも、地域にもよるのだと思いますが、少なくともワテルローにはそのような背の高い建物があまりなかったように思います。代わりに大きな家や敷地を持つ家庭が多く、僕が泊まった先の家でも、五対五のサッカーができるほど庭が広がっていました。余談ですが、その庭にはキイチゴやブルーベリー

が自生していて、滞在中は好きな時に採って食べてもいい、と言われました。びっくりしました。

印象に残ったこと三つ目。これは印象に残った、というよりかは、ある種の心構えのようなものかもしれません。僕が派遣事業を通して大事だと思ったこと。それは一步踏み出す勇気が大切、ということです。例えば、外国の言語を扱う際、どの言語に関しても、学ぶ段階からして難しいことが多いと感じます。そして、学んだことを実際に活かしてみようとしても、いきなり完璧に話せるか、となるとほぼ不可能だと思います。同じような場面があった場合、「どうすれば完璧に話せるのか？」という問いに対しての答えは、経験を積むか間違いを恐れずに話せるかの二択であると、僕は思います。特に大事だと思うのが、間違いを恐れずに話せる、ということです。失敗を恐れて黙り込むより、一生懸命伝えた方が相手にも喜ばれます。失敗してもいいや、でもしっかり伝えよう、その気持ちこそ、一步踏み出す勇気、であると僕は思っています。

今回の滞在中に当たって、僕が設定した目標は「新しい自分を作る」でした。早速答えを言ってしまうと、僕はその目標を無事達成できたように思います。何よりも、外国の空気の中で、初めての人たちと、使ったことのない外国語で話し、コミュニケーションをとる中で、日本では得られない、貴重な体験をすることができたと思いました。振り返ってみれば、数々の思い出。そのなかに僕はいて、振り返るたびにその出来事を懐かしむのでしょうか。一生モノの経験のできた今回の旅。まさに、僕自身の人生の転機であったと思います。



「学んだこと」

中学校2年 杉山 るる



”行動力を身につける”と”国境を超えた人々とのコミュニケーション”。私はこの2つの目標を持って、長久手姉妹都市友好親善訪問団に応募しました。

一つ目の目標”行動力”は自分のマイナスな部分の克服です。応募自体が克服の第一歩でしたが、派遣前には団員達と役割として、スピーチや日本文化紹介の担当を決めなくてははいけません。スピーチ担当を決めてくださいと言われた時に、”ここだ！”と思い、なかなか手を挙げられなかった私ですが、思い切って挙げました。しかし、手は挙げれましたが、仏語と日本語担当の役割分担は、勇気がなく日本語の方にしてしまいました。そのため、仏語レッスン時に、先生が「何か知りたい単語はありますか？」との質問に、誰も応えなかったので、積極的に質問をしました。質問をすると、先生が即座に回答してくれるので、なんだか楽しくなってきました。次から次へと「これはなんて言うの？」「こんなことをホームステイ先で言いたい」と繰り返してしまいました。その後も、積極的に行動することを忘れず、様々なシーンでチャンスを伺い、たった1回ではありますが、先生が早く行動するように促した時に、先頭きって、バスに乗り込み、皆を誘導することもできました。ホストファミリーとの初対面の時も、自分から話しかけに行くこともできました。

こう振り返ると、以前より行動力はつき、マイナスを少し克服できたのではないのでしょうか。行動してみると、最初は恥ずかしいことが沢山あるけど、行動した後は、清々しい気分というか、自分を褒めなくなる、認めなくなる気分になっていました。

それに、行動することは、やらない時よりやった時の方が、周りから自分に与えられるものが大きいことも、自分達がホストファミリーのために日本を紹介するアルバムを作成し、プレゼントしたら、帰国時に今度は、ホストファミリーがベルギーで過ごした最高の思い出をアルバムにまとめてプレゼントしてくれたことから実感しました。行動するという

ことは、本当に私を成長させてくれるポイントです。この訪問団で少しできるようになったので、行動を起こすことが、きっと自信にもつながると信じ、これからも行動力のある人へと成長し続けたいと考えています。

行動力とは別に、もう一つ私には目標がありました。”国境を超えたコミュニケーション”へのトライです。日本にいた時に想像していた”心からの想いがあれば、言葉がなくても通じる”という考えは、仏語は今回初めて習ったし、英語も不得意だったので、英語を勉強していないことを正当化するための考えだったのかもしれませんが。でも実際にホストファミリーとの会話の中で、私達にわかるように、ゆっくりと簡単な英語で置き換えて話してくれたり、選択肢形式で確認してくれたりしたので、ほぼ理解できました。私達の話も、わかって耳を傾けてくれたから伝わりました。相手とつながりたいと思うと、言葉だけでなく、絵をかいて伝えたりすることもあり、相手との距離をぐっとつめれたと感じる瞬間も体験しました。



私はコミュニケーションにおいて、心からの想いは、相手を思いやる気持ちであり、それが表情に出たり、身振り手ぶりの態度にも現れて、相手に通じるのだと思います。



今、中学で勉強している英語は、自分達の想いを伝える道具の一つではありません。でも英語を覚える以上に大切なものは、相手を思いやる心なんだと解りました。二つ目の目標達成に取り組んでいたら、もっともっと大切なこと”相手への思いやり”を学ぶことができました。

これから先も”行動することの継続”と”相手を感じる気持ちを持ち続けること”は、絶対に忘れずに守りたいと思っています。この訪問団参加が、私の成長起点だったと言える日がくるためにも、絶対に。

「ベルギーで私が得たもの」

高等学校3年 田中 乃愛



私がベルギーに行きたかった理由は人との交流が好きのため海外交流をし柔軟な思考力を得たいということや海外の文化に触れ固定概念に囚われず視野を広げたいという気持ちがありました。将来に関しては化粧品を作る仕事に就きたくそのため海外の美容や価値観について身で学びたいと考えていました。

ベルギーに行き、ホームステイ先の家族はすごく優しく私を迎えてくれました。私はそこまで初対面の人と話すとき緊張をしないですが言葉が通じないとなるとやはり緊張してしまいました。ですがベルギーの方々は社交的な方が多く私が緊張していると気づき第一言語が英語でもないのににかかわらず会話を頑張ってしてくれたり、雰囲気や和ませるように知っている日本語を使ってくれました。恋バナで盛り上がったり、国が違ったとしても同じ考えを持っていることがわかりました。そして段々自分から英語で話したい話を話せるようになったり初めは持っていた恥ずかしさがなくなりました。やはり自分の



英語能力が低いため、翻訳機を使用してみましたがうまくいかず理解してもらえなかったことも多いため悲しい時もありましたが、それよりも諦めず頑張って会話しようという気持ちになれたのがすごく大きかったです。全く知らない人に話しかけられ自分の中の言葉、

身振り手振りを使い会話できたことが凄くいい経験になりました。現地では誰も助けてくれませんので恥を恐れず突進できることが大切だと気づかされま

した。ベルギーに行く前は日本が一番素敵、外国は怖いものだと思っていましたがベルギーは素敵でその考えが一切なくなりました。

交流は自力で頑張るのみですが、やはり大きく違うのがベルギーの国の文化でした。食文化では日本では箸が主流ですがベルギーではフォーク、ナイフ、スプーンのみでした。日本でハンバーグ屋さん等に行くときは箸を使いませんがやはり日常使っていないので食事がフォーク、ナイフのみで辛いことが多かったです。サラダに乗っている小さな野菜をナイフで集めたり、リンゴ丸々かじる、ハンバーガーをナイフで切る等日本にずっと住んでいた私にとって驚きでした。みんなは無理しなくていいよと家の食卓で箸を出してくださったり、手こずってしまったものは手伝ってくださりました。ご飯の内容も大きく異なり、毎日フライドポテトを食べたり、そもそも量が多め、正直口に合わない料理等和食が恋しいと思うことが多かったです。夜ご飯で口に合わないものが出て正直泣きそうなることもありましたが、無理してご飯食べなくていいよと何度も声をかけてくれました。食事には私たちの口に合うものを頑張って選んでくれて優しさに感動しました。私は化粧品が好きなのですがベルギーではしている人すら少なかったと感じました。日本と違って人の個性を個人で受け止めているのだと思いました。その分化粧品のお店よりかは香水のお店が多く、いろいろな香りを楽しむことができました。

これらの様々な経験をし私の世界は大きく変わりました。会話できなかった悔しさからもっと外国語を勉強しようと思いが上がりました。自分の努力次第で誰とでも仲良くできるし国がたとえ異なっていたとしても考え方や意外と一緒に通じることを知りました。小さい日本という島国にいただけではこの人生で知ることができない世界があることを痛感しました。宗教、言語、経済力、カースト、いろいろな人ともっと関わりたいと国際交流への関心が深まりました。それと日本への感謝が大きくなりました。日本が中心で考えていましたがそれは世界の常識ではないということです。ご飯も美味しくて平和な国であることが当たり前でないとわかりました。一番身についたことは度胸と自信です。なんて言えば伝わるかなと考えたり、口だけで伝えるのは難しいです。体でいろいろなことを表現したり、恥ずかしがらずに行動できるようになったと思います。これらの経験をベルギーに行き学びました。

「ワートルローの思い出」

中学校2年 橋本 耕太郎 イヴァン



僕はワートルローへの訪問団に選ばれたと聞いた時、嬉しいと同時に、まさか自分が参加できるなんてと大変驚きました。その後研修に参加し、沢山の応募者がいた事を知り、立派に務めを果たしたいと思いました。訪問団の務めとは何か？とこの派遣事業の意味を考えたとき、まずは僕自身が全身でワートルローの文化を味わい、地元の人々と友好を深め、文化の違いを味わい、それを帰国後、周りの人々に発信することだと思いました。滞在期間は短いですが、全力でワートルローを楽しみ、交流し、文化の相違点を観察したいという想いを胸に出発しました。

到着まもなく、僕を驚かせたのは、市役所での歓迎式典の時のことです。日本ではセレモニーと言うと、きちんとしなければと少しピリッとした雰囲気になることが多いですが、とてもゆったりと、おおらかな雰囲気でした。子供たちがつまみ食いしていることを誰も咎めることなく、厳粛な日本の式も良いですが、とてもリラックスできて緊張がとけました。

他に日本と違うなと感じた点は、建築物です。お城をミニチュアサイズにしたような、絵本のような伝統的な建物を人々が大切に使用しているのが印象的でした。日本では新築が人気なので、日本とは違うなと思いました。

逆に似ているところも沢山ありました。例えば、移動に用意していただいたバスを降りる先は、「お先にどうぞ」と譲ってくださったり、貴重なブラックベリーや黄色木苺などを食べさせてくれたりしました。「おもてなし」の心は日本だけのものじゃないんだなと感じました。ホームステイ先でも同様です。ホストファミリーに初めお会いした時は、すぐくおおらかで、細かいことは気にしない文化なのかな？と思いました。僕たちが到着する随分前から、僕たちが楽しく、快適に過ごせるように、色々準備してくれていたりと、遊びに行く計画を立ててくれていたりしました。

到着早々、庭でサッカーして遊んだり、木の実をくれたり、トランポリン場に遊びに連れていってくれました。短い滞在で、多くのことを体験させてあげたいというホストファミリーの優しさに感謝の気持ちで一杯です。

英語・フランス語・身振りそしてスマホの翻訳機能を借りながら、つたなくも、懸命に交流しま

した。日本にくる観光客におにぎりが好評だときいていたので、ぜひ食べてもらいたいと思い、材料を持っていきました。ツナマヨのおにぎりをおいしいといって食べてくれたのがうれしかったです。他に手芸をやったり、ゲームをやったり、時間が許すかぎり共に過ごしました。

お別れの前日、兄のトーマスが「明日が来てほしくない」と、とても寂しがってくれて、「いよいよ明日お別れなんだな。」という気持ちがこみ上げてきました。一緒に過ごせた時間は短かったですが、こんなに短い時間でも、お互いに愛情を感じ、特別な関係になれるというのは、素敵なことだと思いました。

次の日、本当に最後の日になりました。ホストファミリーは僕たちに内緒で、お土産に沢山のチョコレートと、滞在の思い出を詰め込んだ写真立てをプレゼントしてくれました。「幸福な気持ち」という普段使わない表現で表すのが精一杯な、どう言葉に表して良いかわからないとても特別な気持ちになりました。

ワートルローの人々はとてもやさしく、ホストファミリーと過ごした貴重な体験は、想像をはるかに超えた素晴らしい時間でした。僕は、この訪問団に参加させて頂き、全力で文化の相違を経験し、ワートルローを楽しむという1つ目の目標は達成できました。

今後、もう1つの目標である、この素晴らしい体験を、多くの人に伝え、ワートルローと長久手市の友好に貢献していけたらと思っています。参加させて頂きありがとうございました。



「ベルギーの思い出」

中学校1年 畑中 ことね



私は、この夏に姉妹都市友好親善団としてベルギーに行きました。わたしの目標は、ベルギーの文化を知って、日本文化を伝えて、日本っていいなと思ってほしい、というものでした。自分ではこの目標を達成できたと思います。なぜなら、日本文化紹介がとてもうまくいったからです。お別れパーティーの日本文化紹介では、訪問団のみんなが浴衣と甚平を着て、私と友達はスーパーボールすくいをしました。ベルギーのみんなは興味を持って喜んで遊んでくれました。みんな一番大きいスーパーボールを狙って勢いよくすくうので、すぐにポイが破れてしまいます。私たちは『SLOWLY』『RELAX』と声をかけて何度も挑戦してもらいました。その他の書道・折り紙・剣道なども盛り上がっていて、私たちもとっても楽しかったです。みんなが帰った後に、私のファミリーと友達のファミリー2家族で店員さんと一緒に音楽をかけてカラフルな照明を当てて、音楽に合わせて円になって踊ったり、一列になって電車ごっこのように肩を持ってスキップしたりして、まるでナイトクラブのようでした。日本ではこんな経験をしたことがなかったので、一番の思い出になりました。

他にもベルギーで印象に残ったことは沢山ありますが、その中でも家族みんなでブリュッセルに行ったことと、三人の兄弟と一緒に言葉遊びを作ったことが楽しかったです。ブリュッセルでは、グランプラスというブリュッセル中心の大広場に行って、みんなで写真を撮りました。その後トルティーヤを食べて、チョコレート屋さんに行きました。お店は凄くおしゃれで大きくて、中に入るとチョコレートの香りでいっぱい、チョコレートがぎっしり並んでいてびっくりしました。こんなに沢山チョコレート

を見たことがなかったのですごく迷いましたが、丸くて平たい色んな種類のチョコレートがたくさん入っていて、それぞれに違うトッピングが乗っているのを1箱選んでお土産に買いました。とても美味しかったです。子どもたちだけで食べに行ったハンバーガー屋さんで、私たちは『トロピコ』というジュースを初めて飲みました。味はミックスジュースみたいでした。二人とも『トロピコ』がとても気に入りました。付け合わせのフライドポテトが多くて皆が食べきれないでいると、お兄ちゃんが全部食べてくれたので、『ポテトヒーロー』と呼んで、私はフライドポテトで『ポテトマン』も作りました。私たちは楽しくてずっと笑っていました。

私はこの訪問団に参加して、言語や文化の違いなどを直接体験できました。英語で話すことが多かったけれど、フランス語も少し話すことができて、ファミリーもたまに日本語で話しかけてくれたことが嬉しかったので、ファミリーもそう思ってくれていたら嬉しいです。最後の日、お別れするのが悲しくてみんな泣きました。空港に向かうバスの中でもちょっと泣いちゃいました。普通の旅行ではできない体験や学べるものが沢山ありました。ホームステイでは、最初は人見知りしていた私に、フレンドリーにどんどん話しかけてくれたから、私もすぐに心を開けて、ファミリーのみんなのことが大好きになりました。一生忘れません！



■ 姉妹都市交流のあゆみ

1990 (H2)	10	・NHK とベルギー観光局日本事務所を通して、ワートルロー市と接触し打診 平成3年10月に長久手町で開催予定の「町制20周年記念事業―古戦場シンポジウム―」への参加を招請
1991 (H3)	2	・パトリック・ノートン駐日ベルギー大使を山田市造町長、三岡太議長が表敬訪問し、ワートルロー市との交流についての仲介を依頼
	5	・「町制20周年記念事業―長久手劇画フェア」にノートン駐日ベルギー大使が来町
		・山田市造町長、福田績議長を含む長久手町・ワートルロー市友好交流団員6名がワートルロー市を訪問、正式に交流を申し入れた
	10	・「町制20周年記念事業―古戦場シンポジウム」に、ワートルロー市ローズ助役、ベッテンドルフ助役が参加。パトリック・ネイス駐日ベルギー総領事も来町
1992 (H4)	6	・加藤梅雄助役、青山清治議長を含む「長久手町・ワートルロー市姉妹都市交流協議使節団」5名がワートルロー市を訪問、事前協議
	10	・姉妹都市提携に調印 ワートルロー市から調印使節団としてセルジュ・キュブラ市長以下13名来町 ・長久手町内で、両市町共催で「ワートルロー展」を開催
1993 (H5)	4	・長久手町から、日本の石をワートルロー市長久手プラザ公園に設置するため贈呈 ・ワートルロー音楽アカデミー学長 ルドヴィク・ドゥ・サン氏来町、「春の宵・桜リサイタル」公演
	6	・第1回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 山田市造 町長）23名渡欧
	7	・ワートルロー少年合唱団「レ・パストロー」36名来町 第3回長久手町国際交流音楽祭にて公演。町内で2泊3日のホームステイ
	10	・姉妹都市提携1周年記念式典（長久手町中央図書館） パトリック・ネイス駐日ベルギー総領事来町。記念樹アカブナを植樹
	11	・ワートルロー市議会議員コレット、コピテル、ワラン氏ら3名が来町、南中学校訪問
1994 (H6)	3	・ワートルロー市へ甲冑「紺糸絨胸取二枚胴具足鎧」を寄贈
	4	・友愛橋渡り初め式に、ワートルロー市クルイゼン助役来町
	8	・第2回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 浅井静男 教育長）23名渡欧
1995 (H7)	6	・第3回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 山田市造 町長）47名渡欧 5年毎に開催されるワートルロー古戦場記念イベント見学
	10	・オヴェルトベルト助役夫妻来町 世界公園フェスティバル・長久手公園シンポジウムに来賓として参加
1996 (H8)	8	・第4回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 川島勝 教育長）23名渡欧
1997 (H9)	6	・長久手町・ワートルロー市姉妹都市提携5周年記念事業 「仏像と面にみる日本」展覧会 ワートルロー市展示館、駐ベルギー日本大使館にて開催
	7	・ワートルロー市訪問団（団長 ローズ助役）20名来町。町内でホームステイ
	12	・フランソワ・デュケルコープ・デグザルト駐日ベルギー総領事来町
1998 (H10)	6	・ヒュスタープ・デュルックス駐日ベルギー大使来町
	7	・ワートルロー市 クルイゼン助役 フェリエ助役来町、文化の家オープニング式典に参加 ・第5回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 長坂ふじ子 教育長）23名渡欧 ・駐日ベルギー総領事フランソワ・デュケルコープ・デグザルト氏の招待で、訪問団出発前にベルギー総領事公邸（神戸市）での壮行会に出席 ・ワートルロー市へ絵画「長久手春景」を寄贈
1999 (H11)	5	・ベルギーフェスティバル クリスティアン・ヴェルドンク駐日ベルギー大使館公使参事官来町 ・ベルギーコミックス展 マリー・ヴェルドンク駐日ベルギー大使館公使参事官夫人来町
2000 (H12)	8	・第6回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 加藤照彦 総務部長）23名渡欧
	9	・ワートルロー音楽アカデミー学長ルドヴィック・ドゥ・サン氏、第1回長久手オペラ声楽コンクール審査員として来町
	11	・ベルギーワロン地区政府代表団一行（セルジュ・キュブラ ベルギーワロン地区政府副首相・ワートルロー市長 団長）来日 町表敬訪問

2001 (H13)	6	・ベルギーフェスティバル
2002 (H14)	8 9 10 12	・第7回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 青山安宏 教育長） ・ワーテルロー音楽アカデミー学長ルドヴィック・ドゥ・サン氏、第2回長久手オペラ声楽コンクール審査員として来町 ・姉妹都市提携10周年記念訪問団（団長 加藤梅雄 町長） 加藤武町議会副議長を含む23名 ワーテルロー市を訪問、10周年を祝した確認書にサイン桜の苗木を記念に植樹 ・ワーテルロー市ベッテンドルフ助役、ローニー自治体事務局長 来町、福祉の家オープニング式典に参加
2003 (H15)	8	・ワーテルロー市青少年友好親善訪問団（団長 ベッテンドルフ助役）23名来町 町内でホームステイ
2004 (H16)	8 10	・第9回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 青山宏 民生部長）21名渡欧 ・万博半年前祭りに、駐日ベルギー大使来町、参加
2005 (H17)	3 4 6 8 10	・万博サテライト会場「長久手町・ワーテルロー市共同館」開設 ・ベルギー王国スカラ合唱団が文化の家で公演、町内でホームステイ ・ワーテルロー市国際博覧会訪問団（団長 ベッテンドルフ助役）21名来町。記念植樹 ・ベルギーウィークを文化の家で開催、ベルギーサミット in 長久手に駐日ベルギー大使参加 ・万博長久手会場で開催されたベルギー王国ナショナルデー公式行事にベルギー王国フィリップ皇太子殿下ご臨席。ベルギー王国政府関係者来日 ・シモネ フロン地域政府、研究、新技術、対外関係大臣来町、記念植樹 ・長久手町主催、ベルギー王国フィリップ皇太子殿下訪問歓迎会を開催。長久手町長が、ベルギー王国コマンドール章（レオポルド2世勲章）を授与、フィリップ皇太子殿下に長久手町特別名誉町民の称号を贈呈 ・ベルギー王国ロイヤルオーケストラ 文化の家にて演奏会 ・ベルギー王国ナショナルデーに協力 ・ワーテルロー市青少年友好親善訪問団（団長 ヴァンデルクルイゼン助役）25名来町 町内でホームステイ ・ローニー自治体事務局長来町 ・長久手町・ワーテルロー市共同館協力へのお礼のため渡欧（加藤梅雄 町長）
2006 (H18)	8	・第10回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 青山安宏 教育長）23名渡欧
2007 (H19)	5 8	・姉妹都市提携15周年展示会及び祝賀会開催（文化の家及びトヨタ博物館） ・姉妹都市提携15年記念誌「長久手とワーテルローの友好の日々」発行 ・記念樹アラカシを植樹（あぐりん村） ・ワーテルロー市青少年友好親善訪問団（団長 テュムレール助役）22名来町 町内でホームステイ
2008 (H20)	4 7 9	・ヨハン・マリクー駐日ベルギー大使夫妻、ながくて桜まつり視察、来町 ・第11回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 加藤具己 副町長）23名渡欧 ・姉妹都市提携15周年記念訪問団（団長 加藤梅雄 町長）渡欧
2010 (H22)	5 8	・日本ベルギー協会長久手町視察 ・第12回長久手町姉妹都市友好親善訪問団（団長 水野正志 教育文化部長）20名渡欧
2011 (H23)	3	・東日本大震災のお見舞いメッセージがワーテルロー市より届く
2012 (H24)	1 7	・「長久手町から長久手市へ」市制施行 駐日ベルギー大使よりメッセージ ・ワーテルロー市青少年友好親善訪問団（団長 テュムレール助役）7名来市 市内でホームステイ
2013 (H25)	8 10	・第13回2013長久手市姉妹都市友好親善訪問団（団長 川本忠 教育部長）23名渡欧 ・市長 ワーテルロー市表敬訪問（欧州研修 市長、市長公室長、児玉剛、堤健二）

2014 (H26)	7	・ワーテルロー市青少年友好親善訪問団（団長 ソフィ・コートリオー議員）22名来市 市内でホームステイ
2015 (H27)	6	・ワーテルローの戦い200年祭を記念し、市代表团及び市民訪問団を結成（団長 鈴木孝美 副市長） 15人渡欧
2016 (H28)	3	・アランシュロッサー助役、クロード観光局事務局長来市
2017 (H29)	8	・長久手市国際交流協会主催 姉妹都市提携25周年記念事業「ベルギーナイト」開催 来場者500名
2018 (H30)	3 8	・姉妹都市提携25周年記念ビデオレター撮影会実施 ・第14回2018長久手市姉妹都市友好親善訪問団（団長 吉田弘美 くらし文化部危機管理 監）23名渡欧
2019 (R1)	7	・ワーテルロー市青少年友好親善訪問団（団長 ルテール市長）24名来市 市内でホームステイ
2022 (R4)	10	・ワーテルロー市姉妹都市提携30周年記念事業「金継ぎ」開催 ・姉妹都市提携30周年記念事業「ベルギーワーテルローフレンドフェス」開催（主催：長久手 市、長久手市国際交流協会）来場者1,000人 ・姉妹都市提携30周年記念動画制作
2023 (R5)	10 11	・ベルギーワーテルローフレンドフェス開催（主催：長久手市、長久手市国際交流協会、リニモ テラス運営協議会）来場者1,400人 ・市内小中学校で学校給食「ワーテルゾーイ」を食べる日に姉妹都市提携30周年記念動画を視聴
2024 (R6)	8 10	・第15回2024長久手市姉妹都市友好親善訪問団（団長 佐藤有美 市長）13名渡欧 ・ベルギーワーテルローフレンドフェス開催（主催：長久手市、長久手市国際交流協会） 来場者2,000人

■ Special Thanks

◇ワーターロー市

市関係者のみなさん

Florence Reuter 市長
Alain Schlösser 助役（姉妹都市担当）
Cédric Tumelaire 助役
Brian Grillmaier 助役
Célinie Leman 助役
Aisling D'Hooghe 助役
Bernadette Delange-Raeymaekers 助役
Raphaël Szuma 助役
Fernand Flabat 長官
Penina Soudry 議員（観光担当）
Diane D'Andrimont さん（市職員）
今田けいこ さん（通訳）
栗田路子 さん（通訳）
Loïc Vandenwouwer さん（通訳）



ホストファミリー

FLETCHER ファミリー

COSTA ファミリー

COUPARD ファミリー

HANSOTTE - CHOUFANI ファミリー

JUSHKO ファミリー

◇事前講習講師

訪問団 OB ゲストスピーカー

新美健太郎さん（第 14 回 ‘18 長久手市姉妹都市友好親善訪問団員）

浅見景さん（第 2 回 ‘94 長久手町姉妹都市友好親善訪問団員）



フランス語指導

田中岳さん（愛知県立大学 外国語学部 ヨーロッパ学科 フランス語専攻 4 年）

安田朱里さん（愛知県立大学 外国語学部 ヨーロッパ学科 フランス語専攻 4 年）



◇旅行業務

株式会社阪急交通社 名古屋教育旅行支店

◇協力

長久手市国際交流協会（オリエンテーション、情報誌 NaNa 発行、ベルギーワートルローフレンドフェス）

長久手市郷土史研究会（長久手古戦場の解説、床机石見学、抹茶体験）

第 15 回 2024年長久手市姉妹都市友好親善訪問団報告書

2024 年 12 月発行

編 集 第 15 回 2024年長久手市姉妹都市友好親善訪問団
発 行 長久手市
〒480-1196
愛知県長久手市岩作城の内 60 番地 1
長久手市くらし文化部観光商工課
TEL (0561)56-0641 FAX (0561)63-2100
E-mail : kanko@nagakute.aichi.jp

〈表紙〉ワートルロー市のシンボル「ライオン像の丘」で

